

みずむし

(検査し正しい治療を)

野口皮膚科医院

野口幹正 先生

みずむしは、皮膚糸状菌というカビ（真菌）による感染症で、通常、皮膚の一番外側の角質層に感染します。手・足白癬はいわゆる「みずむし」、爪白癬は「つめみずむし」、体部白癬は「ぜにたむし」、股部白癬は「いんきんたむし」、頭部白癬は「しらくも」といった具合に感染した部位によりそれぞれ俗称があります。

「みずむしを治したらノーベル賞」なんていう風説もありますが、実は何十年も前から治療薬はあります。治療中に新たに菌を拾ってしまう人や、治療を中断してしまう人が多いようです。

また、皮膚の病気には、白癬に似た症状を示すものがほかにもあります。みずむしではないものに、みずむしの治療をしている人が意外に多いことも、治りにくいとされる原因のようです。

かゆみがなくなり、外観上良くなっても、真菌が皮膚の中に隠れているので、根気強く抗真菌外用薬を塗り続けることが大切です。

ただし、傷やびらん（ただれ）があつたり、炎症が強かつたりするときは外用薬でかぶれることもあります。それを予防するために、まず炎症を鎮める治療をして、次に抗真菌薬を使用することが必要です。

外用薬だけでは、なかなか治りにくい爪の白癬や、角質層が肥厚した白癬では、抗真菌薬の内服薬が必要となります。抗真菌内服薬には、飲み合わせの悪い薬（併用できない薬や注意が必要な薬）があります。白癬の治療で内服薬が処方される時には、必ず医師・薬剤師に現在服用中の薬をすべてチェックしてもらってください。

自己判断で治療するのではなく、医療機関で検査を行い正しく治療しましょう。